

## 視察調査・研修会等報告書

令和 5年 8月 2日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎 佳之 様

議員氏名( 苅部 勉 )



研修・視察年月日	令和 5年 7月 25日～27日
研修会場・視察先	岐阜県 関ヶ原町 石川県 小松市 石川県 輪島市
研修名・視察目的	小山市の観光資源を生かすための参考とするため関ヶ原町、輪島市の視察を行う。ジチタイワークスで紹介されていた罹災証明迅速化ソリューションについて先進地である小松市にて実情を調査する。
応対者(説明者)の役職・氏名等	関ヶ原町 地域振興課難波課長、教育委員会山田課長 小松市 税務課 林参事、税務課 倉 課長 輪島市 産業観光部 永井部長、朝市組合 富水組合長
※視察調査のみ記載	森田晃吉、永田健一郎
参加議員(同行者)	
調査概要	<p>関ヶ原町 関ヶ原町の観光施策及び歴史教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関ヶ原町の観光及び歴史教育について力を入れている点</li> <li>・ 歴史民俗学習館の展示内容</li> <li>・ 歴史を観光資源とするにあたっての、財政面のメリット・デメリット</li> </ul> <p>小松市 罹災証明迅速化ソリューションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入の経緯、効果等に関して</li> <li>・ 県のシステムとの関係性について</li> </ul> <p>輪島市 輪島朝市に関して</p> <p>(1)輪島市役所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営母体との関係、財政的支援等について</li> <li>・ 観光としての対外的なPR</li> </ul> <p>(2)朝市組合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組合の構成、営業許可、加入条件等について</li> <li>・ 組合の運営費用財源、行政及び他組織との関係について</li> <li>・ 朝市の運営について</li> </ul>

## 視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	<p>関ヶ原町</p> <p>関ヶ原という地名は日本人であればほぼ知っていると思われるが、古戦場ということで各陣営が陣取った場所、戦が行われた場所であり、それを示す石碑等があるだけで何もないなといったところが正直な感想である。</p> <p>関ヶ原町は県と連携して2015年に「関ヶ原古戦場グランドデザイン策定懇談会」を設置し、駅前観光交流館(2015年)や県営の岐阜古戦場記念館(2020年)等の整備を実施した。古戦場を観光資源として活用したのはつい最近のこと。古戦場記念館は開館以来30万人の集客があり、実際に見学したところ大変素晴らしい施設ではあったが、リピーターを呼べるような施設とも思えず、費用対効果としては疑問が残る。古戦場の各陣営を巡るウォーキングラリーコースなども設定されているが、関ヶ原町だけは観光資源としては弱さを感じる。事業自体が県との連携で巨額の費用を投じているため、周辺自治体も巻き込んで観光資源として育てて行くことが今後の課題ではないかと感じた。余談ではあるが、岐阜古戦場記念館の中に小山評定を確認することが出来た。</p> <p>小山市の観光資源も正直に言って花火大会以外はリピーターを望むには難しいようなものや一部のマニアにしか受けないようなものしかないと感じられる。花火大会にしても年に1回の行事なので、これが観光資源として生活に結びつくようなものではない。議員として観光地を訪れるようになって、観光資源というのはそれを利用することで生業として人が生活できなければ、本当の観光資源とは言えないと感じている。</p> <p>小松市</p> <p>罹災証明迅速化ソリューションについては、電子的なシステム構築により罹災証明発行が迅速化されたのかと思いきや、確かにシステム構築により迅速化に寄与した部分はあるが、よくよく話を聞いてみると小松市住家被害認定士育成要綱により、今年度初めて認定者が出了(8名)事により罹災証明を発行するための調査が迅速に行われたことが大きいようである。小松市住家被害認定士は市職員で今年度13名追加予定。最終的には常時30名体制とする方向のことである。</p> <p>小山市においても水害発生時に、市職員が罹災証明発行のために被害家屋を調査したと記憶しているが、これもいろいろな部署からの応援があったり、不慣れな職員が調査したり、日数の経過に伴い水没した家屋の浸水の深さが不明瞭になったりと様々な問題があつたように感じられる。調査スキルを持った職員の養成をまずは行う事が必要であると思われる。</p>
----------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 視察調査・研修会等報告書

### 輪島市

今回は朝市をメインに話を伺ったが、輪島塗や千枚田などの観光資源も合わせ、外国人観光客の受け入れなども行い積極的に観光アピールを行っている。令和元年には 16 万 7 千人の宿泊客があったとのことである。

私は輪島に来たのは 3 度目であるが、公共交通を使って来たのは初めてだったため、鉄道が廃線となり車かバスでないと来ることが出来ないという致命的な交通の不便さに今回初めて気が付いた。

先にも述べたが、観光地は訪れるところであって、生活するには小山市のような観光資源は無くても立地利便性が良いほうが断然有利だと感じた。

観光について総括すると、小山市における観光はイベント等で小山市を訪れてくれる関係人口や交流人口を増やすことをメインにすべき。その中から立地利便性の良さに気づいて頂き、最終的に小山市に移住定住してもらう事を目標とする。

小山市においても自然環境や歴史的な観光資源もあるにはあるが残念ながらこれを目的に大勢の観光客が継続的に複数回来ていただけるような観光資源ではない。観光地として訪れてもらうにはそれこそ莫大な費用を投じて他市にないようなものを何かしら作らない限りは難しいと思うので、観光に関連する予算は最小限にして、現在市内にあるいわゆる観光資源的なものに関しては市民を対象とした憩いの場的なものとなれば良いと思う。

利便性が良く住みやすいから小山市に住んでもらい、非日常を味わう観光に関しては、立地利便性の良さを活用して、小山市から観光地に行けばよいというのが最近になって思うところである。

# 視察調査・研修会等報告書

令和 5年 10月15日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎 佳之 様

議員氏名( 莢部 勉



研修・視察年月日	令和 5年 10月 11日～13日
研修会場・視察先	青森県八戸市 八戸市公会堂、公会堂文化ホール
研修名・視察目的	第 85 回全国都市問題会議 文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展
応対者(説明者)の役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	森田晃吉、土方美代、永田健一郎
調査概要	<p>詳細は添付資料参照</p> <p><b>【1日目】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基調講演 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートの役割って何だろう</li> </ul> </li> <li>2. 主報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・八戸市の文化スポーツによるまちづくり</li> </ul> </li> <li>3. 一般報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から生まれる</li> <li>・標高差1500mの姿勢を生かしたスポーツツーリズムの創出</li> <li>・まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用</li> </ul> </li> </ol> <p><b>【2日目】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. パネルディスカッション <ul style="list-style-type: none"> <li>一巡した文化芸術を活用した街づくり</li> <li>八戸の独自性が生み出してきたもの</li> <li>地域活性化におけるスポーツの役割とその変化</li> <li>スポーツとアニメを活用したにぎわいの創出</li> <li>文化芸術・スポーツで紡ぐまち・綾部</li> </ul> </li> <li>2. 行政視察 <ul style="list-style-type: none"> <li>海から拓け、海とともに生きる街を海から臨む</li> </ul> </li> </ol>

# 視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し どのように参考になるか 所感等	<p>【1日目】</p> <p>1. 基調講演</p> <p>アートというと単に芸術、音楽などを想像しやすいが、これらが人に及ぼす影響と、生活における働きを結びつけることでその必要性、多様性について考える機会となった。</p> <p>2. 主報告</p> <p>2011年に開館した八戸ポータルミュージアム(通称はっち)から地域資源の魅力を創出・発信し、その場に行かなければ得られないもの、出会えない人やコトが集まる場を運営のキーコンセプトとし、その後、点から面へと、同様のコンセプトを共有しながら、八戸ブックセンター、八戸市美術館などを公共交通網の整備と合わせながら歩いて回遊できるエリアに順次整備することで、衰退した旧市街地の商業機能の活性化を進めている。</p> <p>多くの地方都市が抱えている中心市街地の空洞化に対しての施策が成功している数少ない例かと感じた。</p> <p>3. 一般報告</p> <p>・まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から生まれる。</p> <p>主報告にもあったハッチ開館後に、ここを拠点として訳10年間にわたり文化芸術事業ディレクターとして市職員や各事業分野の非常勤ディレクターと一緒に活動された吉川由美氏による報告であった。</p> <p>中心街の再生プロジェクトの遂行に当たり、特に市民に受け入れられプロジェクトがうまく回りだすまでの苦労話を聞いたが、八戸市職員がアートの力で中心街を再生しようという明確なビジョンを持ち、非常勤ディレクターと共に市街地の商店街を巻き込み上手く商店や市民の機運を上げる事が成功のつながったと感じられた。</p> <p>・標高差1500mの姿勢を生かしたスポーツツーリズムの創出</p> <p>長野県東郷市が、地の利を活用して日本で唯一の高地トレーニングができる屋内プールを完成させ運営している紹介であった。人口約3万人の小さな市が、いかにその地域固有の価値を見出し、日本で唯一となる施設を作り、それを必要とする大きな団体(ここでは日本水泳連盟、日本オリンピック委員会等)に提供することで、日本の水泳の強化拠点として定着しつつある。</p> <p>水泳自体がメジャースポーツとは言えないため、他のスポーツ等への広がりが課題かと感じた。</p>

# 視察調査・研修会等報告書

## ・まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用

鹿島アントラーズの周辺自治体とのかかわり、5市行政職員が1人ずつ1年交代でクラブに出向しており、アントラーズを支えるだけでなく、関連企業も含め、いかにして周辺自治体にリターンをもたらすかについて共同で取り組んでいる。小山市にも関連するサントリーホールディングスのBtoBの取り組みも紹介されていた。

## 【2日目】

### 1. パネルディスカッション

八戸市で「はっち」の開館準備に嘱託職員として関わった今川氏のオープンまでの市民との関わり、郷土芸能の伝統的な営みと現代のアーティストとの親和性等から感じられた八戸市の魅力について語られた。

静岡県沼津市長からはスポーツ(フェンシング、サッカー、バレーボール、バスケット、サイクリング)、アニメを活用した地域資源の掘り起こしや沼津の魅力発信について語られた。

京都府綾部市長からは市民一人1文化・1スポーツの推進、特に文化に関しては合唱団への継続的な支援を、スポーツに関しては自転車、カヌー、トレッキングなどの競技場所として市の持つ豊な自然を利用していることなどが報告された。

## 所感

文化芸術・スポーツは人が生活する上でのゆとりとして必要不可欠なものであると感じている。しかし、その好みに関しては多種多様であり、すべての人に満足してもらえるものを自治体が提供することに関しては限界がある。

小山市においても、ハンドベル、ゴールデンブレーブス、思川桜マラソン等、市の魅力発信や市民の趣味の一環として機能しているものもあるが、特にメジャーで市民誰もがそれを楽しんでいるかというと決してそんなことは無い。では自治体としてどこまでそれらを支援すればよいかと考えたときに、市民レベルでその趣味が楽しめる場所の提供ではないかと思う。市外からの観光客集客のための施設を作るとなれば、先ほどのメジャーなプロスポーツの本拠地にしない限りは維持管理の赤字が大きくなるだけと思われる。今回の発表の中でも唯一無二という感じで小さな自治体にスポーツ施設を設置している報告があつたが、今後の運営が厳しいのではないかというのが正直な感想である。

## 視察調査・研修会等報告書

	<p>小山市においてはそもそもその観光資源がないに等しいため、 基本的には何らかの施設を整備する際には、他自治体からの集 客を目的とするのではなく、市民が利用する事を目的とした施設 の規模に留めることを推奨する。交通の利便性が良いのだから、 規模の大きな施設でしかできないものに関しては、その施設があ る場所に出かければ解決できると思っている。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 視察調査・研修会等報告書

令和 5年 11月 10日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎 佳之 様

議員氏名( 効部 勉 )



研修・視察年月日	令和 5年 10月 25日~26日
研修会場・視察先	福岡県北九州市 西日本総合展示場 新館
研修名・視察目的	第18回全国市議会議長会フォーラム 統一地方選挙の検証と地方議会の課題
応対者(説明者)の役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	永田健一郎
調査概要	<p>詳細は添付資料参照</p> <p>【1日目】</p> <p>1. 基調講演 「躍動的でワクワクする市議会に」 片山善博 大正大学教授</p> <p>2. パネルディスカッション 「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」</p> <p>コーディネーター 谷 隆徳 日本経済新聞編集委員 パネリスト 勢一 智子 西南学院大学法学部教授 辻 阳 近畿大学法学部教授 濱田 真理 Stand by Women 代表 鷹木研一郎 北九州市議会議長</p> <p>【2日目】</p> <p>1. 課題討議 「議員のなり手不足問題への取り組み報告」</p> <p>コーディネーター 江藤 俊昭 大正大学社会共生学部教授 事例報告者 辻 弘之 登別市議会議長 たぞえ麻友 目黒区議会議員 永野 慶一郎 枕崎市議会議長</p> <p>2. 行政視察 深い歴史を持つ製鉄のまち八幡と北九州</p>

# 視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し どのように参考になるか 所感等	<p>【1日目】</p> <p>1. 基調講演</p> <p>基調講演では、「議案や予算案の修正はあり」「議場での真剣な議論がない。議案が通るかどうかの緊張感が必要」「税の議論がない」「議会で結論が変わらなければ(市民の声の反映)市民は議会に関心を持たない」「市長提案の議案をうのみにしない」などについての話があり、議会の権限を利用してもっと積極的に取り組むことが執行部の真剣さにもつながり、また、市民からの関心を得るためにも必要と感じた。</p> <p>2. パネルディスカッション</p> <p>統一地方選の結果から、投票率の低下傾向の継続、女性議員の増加、無投票当選の増加、議員のなり手不足、議員に対するハラスマント等様々な地方議会が抱える問題点を抽出し、その対応等が議論された。</p> <p>投票率の低下、選挙への関心のなさが指摘されているが、小山市も含め全国的に同様の傾向である。これらがすべてが悪いとは思っていない。「関心がない」＝「現状に満足している」とも受け取れるためである。しかし、あきらめているから関心がないではよろしくない。市民との対話の中からそういうこともくみ取り判断していくかなければと感じた。</p>
	<p>【2日目】</p> <p>1. 課題討議</p> <p>1日目のパネルディスカッションでも問題点とされていた、議員のなり手不足への取り組みが主な討議内容であったが、ここでも違う観点から考えれば、なり手不足もすべてが問題とは思っていない。なぜなら、人口減少が進む社会では、なり手不足が生じるような自治体は規模の小さな自治体で、議員に対する待遇もよくない。そもそも自治体自体が今後存続が難しくなるような自治体であり、周辺との合併を余儀なくされることも考えられる。平成の大合併では合併せずに済んだ自治体でもそうせざる負えなくなる。と考えれば議員のなり手不足も合併後には議員定数も削減することになるため自然な流れである。人口減少が進む中、議員定数が減らないことのほうが不自然と思っている。</p> <p>小山市においては地の利から自治体としては存続の可能性が高いが、その中でも過疎地域をどのように扱うかといったところが問題点としては似通っているところがある。</p>